患者さんご家族の方へ

高濃度注射用カリウム製剤の適応外使用についてのお知らせ

血液中のカリウムが非常に少ない状態（低カリウム血症）や、そうなる危険性が高い入院中の患者さんに対し、安全に配慮した上で、国が定めた規定（添付文書）よりも高濃度のカリウム液の点滴静注を行うことがあります。

この治療についてご不明な点がございましたら、いつでも遠慮なく、担当の医師、看護師、または薬剤師までご相談ください。

実施内容	高濃度カリウム注射薬による低カリウム血症の補正
承認日	2025年 7月 11日
対象期間	承認後から、内容の見直しの必要性が生じるまで
対象者	添付文書に記載された用法用量での治療が困難な低カリウム血症患者さん
概要	低カリウム血症の治療において、重症の場合や内服困難な場合には注射薬が使用されます。 添付文書では、注射用カリウム製剤を40mEq/L以下に希釈し、20mEq/時を超えない速度で投与するよう定められています。 しかし、輸液量の制限が必要で、かつ低カリウム血症が重篤な場合には、添付文書の範囲を超える用法用量での投与がやむを得ないことがあります。
当院倫理審査委員会承認された内容	<ul style="list-style-type: none">点滴注射用のカリウム液の濃度は、40mEq/100mL以下とする国が定めるカリウム投与速度1時間に20mEq以下を遵守する高濃度カリウム注射薬を使用する場合、必ず太い血管（中心静脈）から投与する
想定される不利益と対策	カリウム補充によって、予想以上に血清カリウム値が上昇し、不整脈や心不全を引き起こすおそれがあります。そのため、患者さんには必ず心電図モニターを装着し、使用中は不整脈の有無を監視します。 また、頻回に血液検査を行って血清カリウム値を確認し、異常が認められた場合は速やかに減量または中止を検討します。 低カリウム血症が改善された時点で、高濃度注射用カリウム製剤の使用は終了し、添付文書に基づいた治療に切り替えます。
費用負担	この治療にかかる費用は、通常の保険診療と同様です。また、本治療に伴う副作用が生じた場合も、保険診療として対応します。 ただし、国の副作用被害救済制度の対象とならない可能性がありますので、あらかじめご了承ください。
問い合わせ先	関門医療センター 電話：083 - 241-1199（代表）